まなびや

♪思い出す、懐かしい音楽の授業♪

文部省唱歌

私たち日本人が学校で歌を歌い始めたのは明治の頃からでした。近代教育制度「学制」が定められ、学校での教科「唱歌」を通じて、西洋音楽をはじめ、多くのことを学んできました。

♪**文部省唱歌**とは、明治から昭和にかけて文部省が編纂した、尋常小学校や高等小学校、国民学校で、尋常小學唱などの教科書に掲載された楽曲の総称です。

♪今も子どもたちに歌われている「ちょうちょう　ちょうちょう　なのはにとまれ…」がすでに明治期の教科書に登場していたり、よく知られた「むすんでひらいて」のメロディーにかつては「見渡せば青やなぎ…」と日本の風景を描いた歌詞がついていたりします。また、「われは海の子」の歌詞は現在より多く「いで軍艦に乗組みて　我は護らん海の國…」と当時の世情を反映した部分があるなど、新鮮な驚きもあります。

♪現在も音楽の授業で扱われる唱歌共通教材には、日本の四季や風景を歌ったものが多くあります。日本の風景や家族に対する思いを、美し日本語にのせて歌う唱歌・童謡。長い時を経てもなお、歌い継がれ、大人になってもふと口ずさむのは、この温かい感覚によって、人は心安らぐからではないでしょうか。

♪これらの唱歌の中には現代の子どもたちが目にしたことのない情景が描かれている歌も多くなり、時代の変遷とともに歌われなくなった歌も増えてきました。

しかし、行事や季節の唱歌や童謡に触れることは、子どもに情操を養い、故郷や家族を大切に思い、いろいろな世代の人と心を通わすことにつながって行くのではないでしょうか。

文部省唱歌 一覧

（※赤字は現在共通教材として全部の教科書に掲載）

仰げば尊し
青葉
赤とんぼ※
秋草
秋の山
朝顔
朝の歌
朝日は昇りぬ
池の鯉
一番星みつけた
いてふ
いなかの四季
犬
うさぎ※
牛若丸
うちの子ねこ
海※
梅に鶯
浦島太郎
近江八景
おきやがりこぼし
お手玉
おぼろ月夜※
親の恩
蚕
蛙と蜘蛛
案山子
かがやく光
かくれんぼ※
影法師
風
かぞへ歌
かたつむり※
加藤清正
鎌倉
からす
雁（かり／がん）
川中島
菅公
ガクカウ（学校）
菊の香
岸の桜
木の芽
露
金魚
漁船
雲
鯉のぼり※
子馬
櫻
薩摩守
四季の雨
霜
出征兵士
スキーの歌※
砂遊び
赤道越えて
瀬戸内海
蝉
卒業生を送る歌
卒業の歌
體練の歌
田植
瀧
たけがり
竹の子
たこの歌
田道間守
大東亜
大塔宮
茶摘※
ツキ
燕
つみ木
時計の歌
豊臣秀吉
取り入れ
鳥と花
長柄堤の訣別
那須与一
夏の月
夏休
何事も精神
波
鳴門
なわとび
虹
日光山
二宮金次郎
日本海海戦
日本の国
入営を送る
人形
忍耐
納涼
野分
羽衣
蓮池
八幡太郎
鳩
花まつり
埴生の宿
母の心
春が来た※
春の小川※
飛行機
雛祭
日のまる※
ひばり
ひよこ
鵯越
広瀬中佐
風鈴
藤の花
ふじの山※
故郷※
冬景色※
冬の夜
僕の弟
舞へや歌へや
牧場の朝※
水車
蓑虫
御代の栄
麦まき
虫のこえ※
村祭
村の鍛冶屋
明治天皇御製
餅つき
もみじ※
桃太郎
森の歌
靖国神社
山
山雀
八岐の大蛇
山に登りて
夕立
ゆうやけこやけ
雪
雪達磨
雪が踊る
雪合戦
夢
ラヂオ
私のうちの
我等の村
我は海の子※

特別展「唱歌と童謡」

【期日・1月23日～3月22日】

めまぐるしく変化する時代の中で、世代を超えて歌い継がれる歌があります。みんなが知っていて、誰もが歌ったあの歌。今回の展示では、唱歌・童謡・音楽教科書の変遷などを紹介します。懐かしいあの曲が見つかるかも♪♪

【関連記事】H29号外一二二

文部省唱歌誕生秘話

「芳賀矢一」博士の校閲

♪春が来た　♪かたつむり